

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 長浜市立西浅井中学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒 529 - 0704  
滋賀県長浜市西浅井町塩津中312番地

E-mail : nishiazai-chu-k@city.nagahama.lg.jp

Website : http://www.zc.ztv.ne.jp/nishiazai-chu2/

児童生徒数：男子 69 名 女子 73 名 合計 142 名  
 児童・生徒の年齢 13歳 ~ 15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

### 1. 実践事例について

本校では「ふるさと学習」を環境教育の柱と捉え、「山門水源の森」をフィールドに、1年生は自然観察、2年生はササユリの播種、3年生は林床整備作業を行った。学校だけにとどまるのではなく、地域と積極的に連携を図りながら、環境教育を進めている。そして、地域の豊かな自然や限りある資源を守ろうとする実践的態度・心情を育てている。また、本校ではユネスコが呼びかけている「世界寺子屋」運動に賛同し、書き損じハガキ回収活動を続けている。西浅井町の全家庭を自治会ごとに組織された「自治会生徒会」が分担してまわり、書き損じハガキの回収を行った。その他にも、奥びわこ健康マラソンなど、地域で行われたイベントのボランティアに全校生徒が積極的に参加している。

### 2. 「山門水源の森」から学ぶ。

#### (1) 1学年の取り組み

- ① 日時 6月11日(水) 9:30~12:00
- ② 参加者 1年生47名 教員5名 講師4名
- ③ 内容 「山門水源の森の植物・動物を知ろう！」
- ④ 成果

地域のボランティア団体「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」(以下、「引き継ぐ会」と連携し、一般入山者が立ち入れない山門湿原にも分け入り、湿原の成り立ち・植生等を知ること、生物多様性に富んだ森の実相を学ぶことができた。

#### ・理科での事前学習

理科の時間を使っての事前学習で、「山門水源の森」について指導した。授業の内容は、山門水源の森の特徴について説明した後、この森にはいろいろな動植物が生息しており、生物多様性に優れている理由を説明した。最後に、「引き継ぐ会」の保全活動は種を絶滅から救っていることを伝えた。絶滅しそうな動植物がこの森に生息していることを知ることで保全活動への意欲を高めさせることができた。ササユリの播種作業を行う前に、同じ内容の授業を2年生でも行った。

#### (2) 2学年の取り組み

- ① 日時 11月11日(火) 9:30~12:00
- ② 参加者 2年生54名 教員5名 講師5名
- ③ 内容 「山門水源の森にササユリの種を播こう！」
- ④ 成果

「引き継ぐ会」のサポートで、ササユリの種播作業を行い保全活動に取り組んだ。播いた種は約4,000粒にのぼった。ササユリが花をつけるまでに7年かかることや、鹿による食害を防ぐために対策が講じられていること等を知った。理科の事前学習で「山門水源の森」を取りあげ、学習した。

#### ・道徳での事前学習 ~山門湿原を守った生徒たち~

道徳で「山門湿原を守った生徒たち」(自作資料)を通して、保全活動への実践意欲を醸成する学習を進めた。内容は、本校が初めて山門水源の森の保全活動のボランティアに参加したときのエピソードを資料化したものである。この資料を読んだ後、ゲストティチャーの方に保全活動への思いを伝えてもらった。特に、「山門水源の森を守っていくのは、君たちだ!」という言葉が印象に残った。

### (3) 3学年の取り組み

- ① 日時 6月18日(水) 9:30~12:00
- ② 参加者 3年生41名 教員5名 講師5名
- ③ 内容 「山門水源の森をきれいに整備しよう!」
- ④ 成果

作業は、林床整備(除伐された枝等の片づけ)、「堰」づくりのための石運び、林道に木材チップを敷く等であった。この活動により、このまま人の手が入った湿原や森は、人が入り続けなければ荒れてしまい、生物多様性を保持できなくなることを学んだ。また、「山門水源の森を守っていくのは、次の世代である自分たち」との自覚・認識を高めることができた。

### (4) 成果

生徒が実際に地域に出かけ、地域の自然に触れ、地域の方々と一緒に活動することは、生徒の学習意欲を高めるとともに、地域への関心を高めることにつながっている。少しずつではあるが、地域の自然を守ることに誇りをもち、良いことをしていると感じる生徒が増えてきている。学校だけで環境教育を行うのではなく、地域と連携を図りながら環境教育を進めることで、生徒が地域に主体的に関わろうとする意欲が高まっていることは、最大の成果といえる。

### (5) 課題

山門水源の森の保全活動では、現地での体験学習が天候に左右されることから、各学年とも天候の安定した時期に学習を設定したり、予備日や事前学習事後の振り返りの時間の設定や内容を工夫したりすることが重要である。また、生徒の学習意欲をより高めるためにも、中学校での取り組みを地域内外に発信していくことも重要である。

来年度からは、事前・事後の学習活動を充実させていきたい。山門水源の森の保全活動のようすをリーフレット形式にまとめ、学校や地域の公民館や道の駅に展示し、環境教育の取り組みを地域に発信していきたい。

## 3. 書き損じハガキの回収

本校では、ユネスコが呼びかけている「世界寺子屋」運動に賛同し、書き損じハガキ回収活動を続けている。この取組は10年以上続いている。今年は、2月6日~12日の期間に西浅井町の全家庭を自治会生徒会が分担してまわり、書き損じハガキの回収を行った。集まったハガキは、約4600枚である。このハガキは、勉強したくてもノートや筆記具などが用意してもらえない国や地域に暮らす子どもたちをサポートする資金づくりに大いに役立っている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）